

氏名	合 田 吉 徳
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1581 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和60年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	好塩基球の反応性に関する研究 第 1 編 塗沫標本による好塩基球の反応性の検討 第 2 編 直接算定法による好塩基球の反応性の検討
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 長島秀夫 教授 栗井通泰

学位論文内容の要旨

気管支喘息患者末梢血好塩基球の抗ヒト免疫グロブリンおよび特異抗原に対する形態的变化を塗沫標本および直接算定法にて観察し，気管支喘息の病態，病型の把握，特異抗原検索方法の可能性について検討し以下の結果を得た。

第 1 編 塗沫標本上，洋梨状 (A form) あるいは膨化状 (B form) を呈する反応好塩基球はアトピー型気管支喘息および血清 Ig E 値が高値の症例では抗ヒト Ig E 添加で出現頻度が高く，重症難治性喘息および血清 Ig E 値が低値の症例では抗ヒト IgG 添加でより出現頻度が高い傾向が認められた。

第 2 編 反応好塩基球の簡単な観察，判定方法として直接算定法を考案し，かかる方法による特異抗原に対する好塩基球の反応性と皮内反応閾値，気管支吸入誘発試験および RAST score との間に密接な関連を認めた。

以上，好塩基球の反応性の検討は気管支喘息の病態病型の把握に有用であり，また特異抗原検索方法としても日常臨床に応用できるものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究はヒト肺癌実験モデルの作製に関する研究であって，ヒト肺癌患者の皮下転移巣より肺扁平上皮癌細胞株を，また癌性胸膜炎胸水より肺腺癌細胞株の樹立に成功した。さらにヒト肺癌動物実験モデルの作製を目的として新生児ハムスターとヌードマウスにこれらの株を移植して成功し，ヒト肺癌の基礎的研究に有用な実験系を確立した。これ

らは肺癌の研究に資すること大で，よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。